

トムラウシ山 遭難防げ

新得山岳会など 雪渓に道しるべ描く

【新得】夏山シーズンを前に新得山岳会などは23日、日本百名山の大雪山系トムラウシ山(2141㍎)の中腹にある雪渓に、登山者が道に迷わないよう紅石灰で矢印などの道しるべを描いた。



トムラウシ山に向かう登山道の雪渓で行われた赤い矢印のマーキング作業

(加藤哲朗撮影)

トムラウシ山は残雪が多く、例年6月下旬まで登山道が雪に覆われて道に迷いやすい地点があるため、2008年から実施。

山岳会と新得署、町などの計15人が2時間以上かけて短縮登山口から標高1400㍎のコマドリ沢まで1

袋3㍎の紅石灰12袋を分担して運搬。登山ルート正しい方向を示す矢印を2カ所、誤った方向に行かないよう注意する「X」を1カ所、手分けして雪の上に描いた。

トムラウシ山も温暖化傾向を受けて年々雪解けが早まっており、カムイ天から先の登山道は大部分が雪渓に覆われているものの、木道付近は雪が薄く、踏み抜きやすい状態だ。

山岳会の樋口信司会長は、「季節の訪れが2週間早く、温暖化の影響を感じる。コマドリ沢は約2㍎の雪に覆われているが、その先の前トム平に向かう途中のガレ場も雪が薄くなっており、踏み抜きに注意してほしい」と呼びかけている。

(和田年正)